

横浜キネマ倶楽部
第55号 会報
2019年9月7日発行

第55回上映会

寿ドヤ街 生きる

監督/編集 渡辺孝明
録音 和田康

ヨコハマ
アートサイト

1981年/日本/モノクロ/92分/DVD 上映

【作品解説】

日雇い労働者たちは何の身分保障もなく、日々の雇用に明け暮れることに誇りさえ持っている。渡辺孝明、和田康の二人だけのスタッフはカメラと録音機を持ってこの街に入り込んだ。労働者たちの過酷な労働状況を捉えながら、彼等の過去が語られてゆく。労働者それぞれのインタビューからは小川プロで培った被写体との関係性を追求しようという方法論が活かされており映画は労働者たちの大宴会で結ばれる。

『どっこい! 人間節・自由労働者の街』のその後を、彼等なりに労働者それぞれの独立した世界として捉えようとしている。

[日 時] 2019年9月7日(土)
[上映時間] (1回目) 11:30 (2回目) 14:30
[シンポジウム] 13:10~14:10
「寿地区について思うこと」
登壇者: 渡辺孝明監督(本作品監督)

[会 場] かながわ労働プラザ (3F 多目的ホール)

～横濱寿町・今を生きる！ 寄世場を生きる！～ (1)

～私が着いたのはニューオインズのお～♪
 浅川マキの朝日楼… 朝日のあたふ家の日本語
 バージョンです。これを2013年東京高円寺のある
 ライフで～私が着いたのは横濱のお寿町とい
 ドヤ街だった～♪と寿町バージョンで唄った事
 があります。自らの労働者人生の一面を代
 表してあります。この度おぼろの映画「新ドヤ街
 生きる」が10月より上映される事とあり
 良日が決まっている所です。凄いです。よくぞ二人の
 映画をひたすら出にまたもんだと感心します。
 横濱キネマ倶楽部 たいが者じゃない！ 思えば
 渡辺孝明監督や野本三吉先生には色々教えて
 いただいた。2016年寿町築り前段企画で大変
 お世話になりました。その時の座談会でも話題
 になりましたが「よくぞ寄世場を何なんだろう？」と
 日く、使いすぎの労働力の町北池！ 日く、他では
 面倒の見えない高齢者障害者の受け皿！ 社会の
 底辺に生きる人達を寄世集めてきたブラックホール…
 人はさっさと勝手なシッテルを貼れりします。
 石確かにどういた一面がある事はいけません。
 しかし たかすに仲間が仲間を支え合って生き
 きた歴史があるので。現代の個別化した社会
 が忘れかけてしまった人情が脈々と流れて
 いる事も事実なので。

(2)

5月23日「センター」がリニューアルオープンして
 町の外部から色々な人達が入って来ました。
 行政も力を入れて町の活性化(?)をはか
 っている様です。と木はとて「良い事だ」と
 思いますが「肝心の事を忘れないで下さい！」
 と言ったり。事断と隣町のため(?)アーカイブを
 木に丸調べるのはおまいますか。本当の
 工場の部会があまりおわかりに存じりないのじか
 はないでしょうか？ 寄世場事断の歴史は
 遠い昔話ではありませんよ。無産階級の常
 働者がとて社会的弱者が流(汗)と流
 は二の地に流れ染み込んで雇土となり
 今を支えているのですよ。数が少なくなつた
 とはいえ今も名も無き常働者達が早朝から
 働きに出てビルと道路を。とて日本社会
 の基礎を造りあげているんです。つり数日前
 も夏祭りの仲間と公園で話していた「トビ」職
 の親父が来て常働者の手配師を教えて
 くれと言っていました。今人手が足りなくなつて
 きて再び寄世場が色々な意味で「カーズ
 アップ」を始めたのですよ。寄世場に人なし
 とは言わせませんよ。みんな知っていますよ。
 うかた「ゆい」。見子観桌がス"して本物が
 たにさんいりて事を知っています。

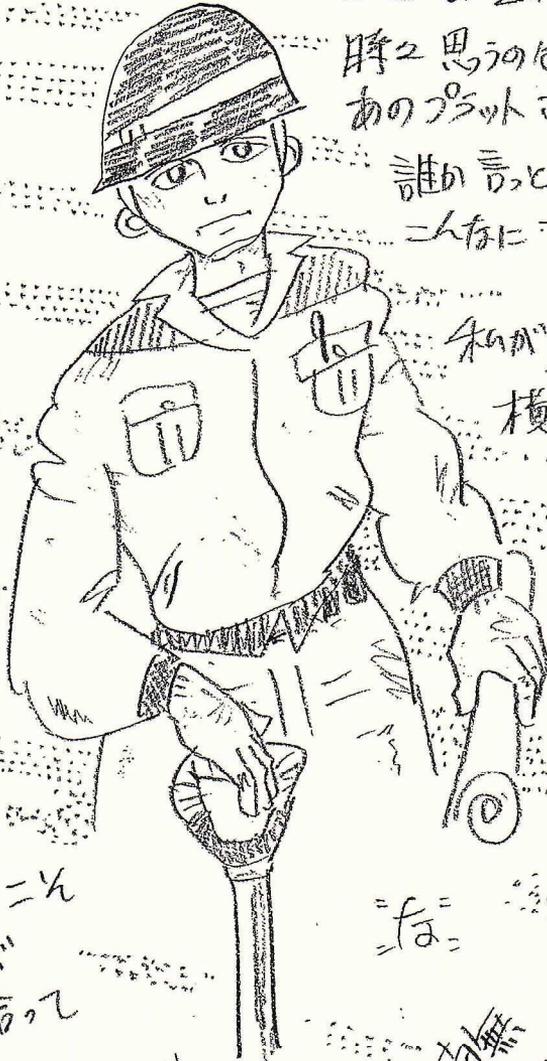
素晴らしい人達ばかりですよ。子供達の指援員 (3)
 は長年やってこられた 先生は 90 年が
 雇く方でも木面低で 無償で 子供達の応援
 されている。自らの友人でもある 看護師の男は
 仕事を休んでも 町の弱者のために 訪問看護
 されている。又 普段は町の荒れた者あつかい
 されている ある仲間が 越冬や 夏祭りなどの
 一番大変な時に いやな顔 ないで 母が だまに
 率先して働いてくれるし... 昔から 識字の大沢
 先生・町のたて役者 野村三吉先生・労働組合の川瀬
 さん 等等 素晴らしい人材は 後を断たないです。
 茅町のふるい 寝台場だから 二その産物が 毛もありません。
 木音と建前が 木物と二毛物が 如実に交差
 している 寝台場だから 二と言え子持色柄も
 毛もありません。そういった意味では 日本の近辺
 社会のどう型でも ありまふから ねえ。
 長々とウツクを 木またが 二そういった事を
 二の映画から 声でも 感じ取って 木たさ 労働者
 名利に つきます。 ~ (徳島 幸次代 御位職が
 名も無き者の 俊養のために 必死に 建立して
 くれた 孝地 蔵の センター 帰神を 祈りて) ~
 乱筆を 置かせて いたる ます。

茅町在住労働者 長澤 浩一

朝日の
あたり

ドヤ

私が着いたのは
横浜の青町というドヤ街だった
あずりたお金は返さなかった
あん時私は国を出たのさ
働ま働いて 又働いて
でもお金は少しも残さなかった
時々の思ひは故郷の
あのプラットホームのうす暗さ
誰か言ひてくれ仲間よに
こんなになたさ おしほいさ
てネ



私が着いたのは
横浜の青町という
ドヤ街だった

私が着いたのは
横浜の
青町という
ドヤ街だった

昔は皆
万感の
思いで
青町に
落ち
来た

んた所
だかニん
おまか
支え合って
生きて
まとの右

は

～南無 釈迦 大菩薩～

2019年6月16日 第54回上映会「神宮希林 わたしの神様」アンケート結果

来場者数：504名 アンケート回収数：144枚 回答率：28.6%

1 作品についての評価

● とても良かった	93枚	64.6%
● 良かった	41枚	28.5%
● あまり良くなかった	1枚	0.7%
● 良くなかった	2枚	1.4%
● 無印	7枚	4.9%

〈感想〉



(C) 東海テレビ放送

(とても良かった)

- 樹木希林さんの人がらが良くわかりました。神にお願いするのではなく感謝する心が大切だと認識しました。
- 一か月前に孫と行って来たばかりでしたが、あらためて心にしみました。
- 元気な希林さんを見られてとても良かったです。
- 全身ガンでも姿勢が良く歩幅もあり驚いた。御自宅は以前見たことがあり、掛け布団も修理しつつ使ってと言っていた。(TBSTV)終活とか物に困まれない生活・お手本になります。伊勢神宮はいつか行ってみたいくなりました。神の存在は信じていますが、希林さんがおじぎをして端を歩かれているのを見て嬉しかったです。大好きな美輪さんが「真ん中は神様が通る道」と言われたからです。物を大切に、お願い事をせず感謝の気持ちだけを持つ・・・勉強になります。
- 以前一度見たものと少し違っていたので新鮮でした。あまりにも自然リアクションをする希林さんの素晴らしさを再認識しました。
- 館内がさむすぎた！！
「血塗られし手でもてつぐなうすべを教えよ」という岡野弘彦さんの短歌が入っていることで、国家神道と伊勢神宮の果たしたぬぐいきれない犯罪性を告発しているように感じた。それに対しあまりにも無邪気な希林さんの神宮への畏敬・感謝の念に奇異な感じがした。

- 神聖、ユーモアありで、希林さんの内面を知る。
- 日本人と神とのつながりについて少しは理解できた神について考えてみたいと思った。きりんさんの人柄を身近に感じた。
- 伊勢街道に行ったときは、ぜひ松浦武四郎記念館にも行ってみたい。
- 思っていた以上に見られてよかった
- 私も出かけたセン宮でした。思い出しながら希林さんと一緒に旅が出来たこと嬉しかったです
- DVD化されていないので興味がありました。希林さんが出てただけでも2時間もたせられるけうな存在だと思います。
- 希林さんが亡くなったとは残念で仕方ありません。よく撮れていましたネ。神宮にお参りしたくなりました。
- 希林さんとたくさんの仕事をなさった監督のお話を沢山のエピソードと共に聞かせて頂けてとても嬉しく有難かったです。
・映画とても良かった。希林さんらしく「石神様をお願いすることはありません」ときっぱり云われていたのが面白かった。
・岡野氏(歌人)の紹介をしていたのも感動しました。自分の主演映画の中で尊敬する歌人を立てて自分はワキに回って、歌人の生き方を見せて下さったのも有難かったです。
・住いを細かく見せて頂いたのも有難かったです。物を持たないとログセにしているのを聞いていたもので、簡素なお住いとは思

っていましたが、何ともすばらしい、センスの良い部屋と家具、本当に好きなものだけを大事に使う、生き方の基本姿勢が見事に具現されているのを見せて頂きました。

・何で岡野氏のエピソードがこの映画の中に入れられたのか、監督のトークの最後に聞かせて頂いたのも嬉しいことでした。ありがとうございました。

●音楽とよくマッチしていて映像も美しかった。希林さんと伊勢の風景がとても素敵でつい見入ってしまった。まだまだ長生きして、種々の役をやってほしかった。演技のみならず人柄が素晴らしいと改めて思った。Very good moovie！ Thank you so much！！ 人生かっこ良くしまえた人でしたね。

wonderfull！！ 映像だ

- 心の中で手を合わせました。「人間って良いなあ」
- 心の深が清められるような感動に包まれています

(良かった)

- 故希林さんのありのままの姿が胸を打ってとても良かった。
- こういう機会をもうけていただきありがとうございました。
- 音楽とてもマッチしていて、心がおどる感じ。
- 阿武野氏のお話を聴講し、良い気持ちで鑑賞したかった。気持ちがざわついて、満喫できなかった。

2 講演会についての評価

● とても良かった	84枚	58.3%
● 良かった	32枚	22.2%
● あまり良くなかった	2枚	1.4%
● 良くなかった	1枚	0.7%
● 無印	25枚	17.4%

〈感想〉

(とても良かった)

- 講演の内容の一部は阿武野さんの文章だったと確認はできた。先日キネマ旬報社出版の本を読んできた。阿武野さんのことは覚えていたが、
- 高円寺で希林さん、阿武野プロデューサー、是枝監督との縣談があり、その時の光景がまざまざと思い出されました。とにかく希林さんの独壇場で、希林さんを見つめるお二人の姿が印象的でした。楽しい思い出でした。
- ぜひ、天国からこんにはを製作して、横浜で上映してください。又は、テレビでも良いです。

● 伊勢神宮遷宮時の出来事を扱ったドキュメント映画「神宮から熊野へ」を思い出した。それは「大逆事件」で獄死した地元の医師が、遷宮が進められていた時期に冤罪だと判明し、名誉回復がなされた。その様子と作品を関係したものです。天皇代替りの今、天皇制と国家神との関係を考えると、ドキュメンタリーとして訴えるものが。

(良くなかった)

● 希林さんのポリシー人から物をもったりあげたりしない。神だのみせず感謝をする映画の端々から感じられた。「神宮から熊野へ」というドキュメントを観ながら思い出していた。それは伊勢の医師が大逆事件の冤罪で殺されたこの遷宮に合わせて名誉回復が地元で行われたというドキュメントでお伊勢さんのとらえ方がプロデューサーのあり方でこうも異なるのか。

(その他)

● 南太田の上映会をのがし、本日みることができてよかったです。



- 遷宮の同じ年、初めて家内と一緒に伊勢神宮にお参りした。団体のバスツアーだったのでこの映画で十分に周辺の様子を見せて頂けて嬉しかった。
- 森永エンゼルのお話し、昔の自分を思い出し、どこかでエンゼルが見ているので悪いことをしてはいけないと思った事を思い出しました。とても楽しいお話の数々良かったです。
- 自然体の語り口で良かった。
- 希林さんとおつき合いのなかの裏話を楽しく拝聴することができました。
- 天国からこんにはを期待しております。

● (途中まででしたが)

● 横浜でももう一度「天国からこんにちは」を放映していただきたい。

● 希林さんのウラ話よかった。

● なかなか聞けない話を面白く聞かせてもらいました。

● とくに上手なトークとは思いますが裏話がきけて楽しかったです

● 又、お話し聞かせてください。

● 2回目上演後のお話はとても良かった。

● 入室できず、聞くことができませんでした。ロビーに音を流していましたが、大勢の人ががやがやとして全く聞けませんでした。チケット代に講演も含まれているのですよね。時間も無駄になりました。とても残念です。阿武野プロデューサーが上映後、10分ほどお話して下さいました。ありがとうございました。

● 現場の生の声が聞くことができて満足しています。

● 阿武野プロデューサーがおっしゃっていた横浜では見られないとおっしゃっていた映画是非見てみたい。

(良かった)

● 人間性が出ていて希林さんに大事にされた方だと想像できる。

● 樹木さんの人となりの裏エピソードが楽しかったです。ただし、途中遅れて入場する人が「あまりに多く」講演者に失礼としました。又その時、空席を案内してくる若いスタッフが行ったりきたりして気が散った。腰をかがめるなど、すべきその配慮がないことが腹立たしかった！

● 途中からだったので

● お話の内容もユーモアがあり良かった。希林さんとエピソードをたくさん聞かせてもらい、より親しみが持てた。

● 今回の講演楽しみにしていたのに、入場時の説明不足でイライラ感がありました。

● 希林さんの人間味が感じられた。温かいお人柄(希林さんの)がわかったような気がします。

● ありがとうございました。

● 映画を観た後の方がより楽しめたのかなと思ったので(内容的にーネタバレ等)講演のタイミングは可能だったら調整していただけると幸いです。

● 講演の時にロビーがうるさい。ご案内がうまくいってないからでしょう。

(あまり良くなかった)

● 感謝と感激で涙が出ました 希林さんありがとうございます
ご冥福をお祈りいたします

(その他)

● ちゃんと聞くこと叶わずとても残念。でも終了後のおまけで少し！

● 残念ながら聞けませんでした。2部の人も聞けるよう検討願います。

● 講演会場に入場できなかった。誠に遺憾です。

● 聞けなかった。(時間の都合で)

● 後半組10分でしたが、Talkもお上手で希林さんのこぼれ話も聞いて良かったです。

3 「横浜キネマ倶楽部」の運営に対しての意見・要望等(上記以外)

[軽んじられた]

12時50分頃に会場ロビーにつくと「列に並んでください」というのと「入れるかどうかはわかりません！」と言っているのが聞こえました。その時は(当日券が出るのを待っている人がいるのかしら?)と、状況が見えず、よもや自分が講演会を聴講できないなど思いもしませんでした。ホール脇の通路に向かって伸びる列に誘導され、列の整理をしているスタッフや他の来場者の会話が聞こえてくるほどに、どうやら人が多すぎて会場に入りきらないかもしれないのだと、だんだん事態がわかってくると、比喩ではなく、頭がクラクラしました。いったいどういう事なのか。生前の樹木希林さんと深い信頼で結ばれた盟友ともいえる阿武野氏から希林さんのお話が聴けるのをひと月以上前からチケットをおさえ、楽しみにしていました。まさか当日その場で講演会に入場できないなどという事態は想像だにもしませんでした。樹木希林さんを好きな自分の気持ちを、さらには樹木希林さんご本人までもを軽んじられたと感じ、悲しくて情けない気持ちでいっぱいになりました。「入れるかどうかは

わかりません！」というスタッフの声の“軽さ”に、憤りで身が震えるのを覚えました。講演会つき映画上演とうたっており、入場制限がある可能性などどこにも示されていないこと鑑賞回を指定しないチケットで講演会が2回の上映に挟まれたプログラムで、開催案内に人数から制限などについて何の記載もなかったら、当然どちらの回の鑑賞者も講演会を聴講できると理解するのではありませんか？たとえ無償の有志ボランティアによる運営とはいえ、人を集めた催し物を一般に向けて開催するのであれば、参加する人ひとりひとりの「思い」への敬意が必要ではないでしょうか。今回の催しは、あまりにも想像力と計画性に欠ける杜撰な運営だと評さざるを得ません。

[不公平]

参加者へのあらゆる案内の発信周知が不十分で、振り回されました。講演会を聴講できなかった以外にも不公平感を強く感じます。一回目の上演中、講演会入場待ちの列で、講演開始予定時間を過ぎて入場を始めているのか、また、入場できるのかどうかの案内が、ホール脇通路の奥の方に並ぶ私の周囲にはまったく周知されませんでした。気付くといつものまにか頭上のスピーカーから講演の音声流れていました。非常に情けない気持ちになりました。列に並んだ自分の順番からいって、望めば（だいぶ遅れてではあるものの）講演会場に入ることはできました。しかし、自分さえ入場できればそれで良いという気持ちにはなれず、スピーカーの音がよく聞こえるとスタッフが案内していたホール脇の通路で講演の音声を聞いていたところ、ロビーの方ではいつのまにか2回目の上映の入場のための列を並べ始めていました。通路の方にそのための声がけ周知がなかったため出遅れ、結果として来場した順番からみてもかなり後ろの方になってしまって腑に落ちない思いでした。そもそも、来場して並んでいた順からいえば2回目上演の入場はトップでも良いぐらいじゃない？と思いました。私はPeatixでチケットを購入しましたが、紙のチケットと引き替える必要があることを入場時まで知らされませんでした。そのためいったん列を離れなければならず、入場順を（優に10人以上に）抜かされることになりました。腑に落ちません。それならそうと、もっとわかりやすく案内が出せばいいし、そもそもアプリ画面で確認できるからチケットレスでいいじゃないかと思います。

[要望]

定員を超過しない仕組みを設計すること。

早いもの順のフェアネスが担保される仕組みを確立すること。

[提案]

◎上映会や講演会など参加する各プログラムを指定したチケットにする。

◎参加受付と入場時のチケット確認を分ける。 そのために当日の参加受付時で各回ごとの整理番号を発行し、番号の順番で入場させる。

◎各回、完全入れ替え制にする。

これにより

- 1、先着順のフェアネスの担保
- 2、入退場の人の流れをスムーズにする
- 3、待ち時間の参加者の行動の自由度を上げる

順番待ちの列に固定されなければトイレなどにも行けるし足の弱い方などがベンチに座ったり、来場者の便宜も向上する。列を整理する分のスタッフの負荷がなくなり、受付等他の業務に人数を割ける。

あるいは、◎すべてのチケットを全席指定とする。

《 アンケートご協力ありがとうございました 》

〈横浜キネマ倶楽部、これまでの上映作品〉

2005.9月～2019年8月

上映会 54回・特別上映会 5回

- 第1回 美しい夏キリシマ
- 第2回 パッチギ！
- 第3回 カーテンコール
- 第4回 二人日和
- 第5回 ゆれる
- 第6回 トリノ、24時からの恋人たち
- 第7回 長い散歩
- 第8回 天空の草原のナンサ
- 第9回 イノセント・ボイス—12歳の戦場—
- 第10回 モーターサイクル・ダイアリーズ
- 第11回 恋するトマト
- 第12回 シッコ
- 第13回 歓喜の歌
- 第14回 赤い風船・白い馬
- 第15回 三本木農業高校、馬術部
- 第16回 ラストゲーム～最後の早慶戦
- 第17回 マリア・カラスの真実
- 第18回 ディア・ドクター
- 第19回 扉をたたく人
- 第20回 縞模様のパジャマの少年
- 第21回 春との旅
- 第22回 小さな村の小さなダンサー
- 第23回 冬の小鳥
- 第24回 ホームカミング
- 特別上映会第1回 ミソバチの羽音と地球の回転
- 第25回 デザートフラワー
- 第26回 ハーモニー心をつなぐ歌
- 特別上映会第2回 ドーバーばばあ織姫たちの挑戦
- 第27回 エンディングノート
- 第28回 旅芸人の記録
- 第29回 トガニ
- 第30回 月世界旅行・
メリエスの素晴らしき映画魔術
- 第31回 かぞくのくに
- 第32回 警察日記
- 特別上映会第3回 名もなく貧しく美しく
- 第33回 よみがえりのレシピ
- 第34回 きっと、うまくいく
- 第35回 日本の悲劇
- 第36回 ペコロスの母に会いに行く
- 特別上映会第4回 息子
- 第37回 ハンナ・アーレント
- 第38回 標的の村
- 第39回 救いたい
- 第40回 野のなななのか
- 第41回 ぼくたちの家族
- 第42回 NO
- 第43回 春よこい
- 第44回 野火
- 特別上映会第5回 手のひらを太陽に
- 第45回 袴田巖 夢の間の世の中
- 第46回 父を探して
- 第47回 お盆の弟
- 第48回 祖谷物語-おくのひと-
- 第49回 東京ウインドオーケストラ
- 第50回 ふるさと
- 第51回 どっこい！人間節 寿・自由労働の街
- 第52回 孤独の人
- 第53回 喜劇大風呂敷
- 第54回 神宮希林 私の神様

<<< キネマ倶楽部のページ >>>>>

「映画大学イン福岡（全国映連主催）」に参加してみた

横浜キネマ倶楽部 運営委員 藤井 厚

何故、映画大学に参加するために福岡まで行こうと思ったのであろうか！？

映画大学というものがどんなものか！！知らないからだ！

開催地が福岡だからだろうか！？

わざわざ交通費をかけて福岡まで行く必要があったのだろうか！！行きは羽田から航空機で行った。先祖の墓参りだった。

映画大学第2講は平松恵美子さんの[子どものいる映画]だった。まだ観ていないあの日のオルガンの京都撮影所での話であった。

第4講は叶精二さんの[アニメーション映画監督 高畑勲の演出術]だ。余り期待していなかった演題だったが、とても良かったし、とても面白かったし、ためになった。アニメーション映画の可能性を学んだ。高畑勲監督が初期に助手で参加している柳川堀割物語を是非観てみたいと感じた。

第5講は信友直子さんの[私はなぜ認知症の母を撮りつづけたか]だった。

第7講は、渡辺梓さんの[女優であること]だ。望郷の鐘、筆子の愛等に出演していたとは知らなかった。いまは横浜にお住まいということで加藤茂雄俳優生活70周年記念作品、浜の記憶の上映を我がキネマ倶楽部でしてみたいですね！！近日上映の山田緋紗子監督の一粒の麦 荻野吟子の生涯の上映鑑賞も楽しみだ！

残念ながら、インタビューが下手くそで魅力をうまく引き出せなかったことだろうか！？

即ち、映画大学とは映画人を身近に感じ、映画人と交流できる場所だということだろうか！

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

・ ・ ・ 第57回上映会お知らせ ・ ・ ・

「ヨコハマアートサイト2019」

2019年11月4日（月・祝）「**日曜日の子供たち**」

上映時間：①11：30～ ②14：30～

講演：13：20～14：20 堀田泰寛監督

入場料：前売1,000円・当日1,300円・障がい者1,000円（介助者1名無料）

会場：横浜市鶴見公会堂（西友6階）

次回第56回上映会お知らせ

「ヨコハマアートサイト2019」に応募し、採択されました！

『寿ドヤ街 生きる』『寿ドヤ街 生きる2』『日曜日の子供たち』

「寿ドヤ街 生きる2」

2019年10月22日(火・祝)

上映時間 ①11:30 ~

②14:30 ~

講演: 13:10 ~ 14:10

渡辺孝明監督

「浮浪者」殺傷事件の衝撃と今後寿地区

〔入場料〕

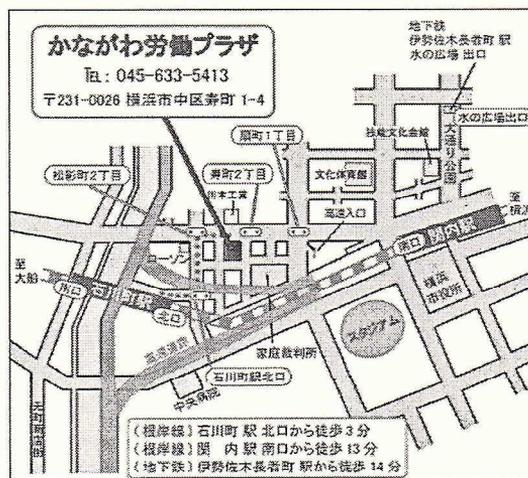
前売 1,000円 当日 1,300円

障がい者 1,000円 (介助者1名無料)

〔会場〕 かながわ労働プラザ

3階多目的ホール 045-633-5413

(中区・JR石川町下車)



・・・第57回上映会お知らせ・・・

2019年11月4日(月・祝)『日曜日の子供たち』(時間等はp.10に記載)

・・・「ヨコハマアートサイト」とは・・・

地域課題にアプローチする文化芸術活動をサポートするため、文化芸術の持つ創造性をコミュニティやまちの活性化と結びつける文化芸術活動や、横浜の個性ある文化芸術を市内外へ発信する活動を広く公募し、支援(助成広報協力等)する事業です。

2019年、アートで地域を、29件の文化芸術活動が決定!

横浜に映画ファンの思いが反映される映画館を作ろう!

横浜キネマ倶楽部は、横浜で永年親しまれてきた映画館の相次ぐ閉館を惜しむ映画ファンが集まり、2005年5月発足し、「横浜に映画ファンの思いが反映される映画館をつくる」ことを目標に掲げて活動を続けています。会の存在をより多くの皆様に知っていただき、映画館をつくる目標に一步でも近づけたい、それと同時に良質な映画を上映することで、映画ファンの交流の場を提供したい、という思いで年4回の上映会を行っています。

横浜キネマ倶楽部会報



発行: 横浜キネマ倶楽部

〒231-0062 横浜市中区桜木町1-1-56
横浜市民活動支援センター No.85

横浜キネマ倶楽部

TEL: 080-8118-8502 (10時~18時)

Eメール: yokohama_kinemaclub@yahoo.co.jp

HPアドレス: <http://ykc.jimdo.com>